

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 9 月 27 日現在

機関番号：82406

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K03219

研究課題名（和文）臨床現場における人の共感特性と心理的ストレスに関する研究

研究課題名（英文）Research on dispositional empathy and psychological stress among healthcare professionals in clinical settings

研究代表者

長峯 正典（Nagamine, Masanori）

防衛医科大学校（医学教育部医学科進学課程及び専門課程、動物実験施設、共同利用研究施設、病院並びに防衛・防衛医学研究センター 行動科学研究部門・教授

研究者番号：70725217

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：防衛医大の医療従事者118名から縦断データを収集した。心理尺度を用い、心理的反応（バーンアウト/共感疲労/共感満足）、共感性（共感的関心/個人的苦痛/視点取得/想像性）、ストレス対処を評価した。ストレス対処の探索的因子分析では、3因子（積極的対処/援助希求/間接的対処）を同定した。各心理的反応（バーンアウト/共感疲労/共感満足）を目的変数とした反復測定混合モデルにより、個人的苦痛および間接的コーピングがリスク要因として、共感的関心と積極的コーピングが保護的要因として抽出された。これらの知見は、医療従事者の心理的健康を高めるための教育的介入を考慮する上で、有用な情報になるものと考えられた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

医療者は患者や家族が表出する種々の感情を受け止めることを求められる。その結果、医療者にはバーンアウト・共感疲労といったメンタルヘルス上の問題が生じ、休職や早期離職といった社会問題の一因にもなっている。医療は必要不可欠な社会的基盤であり、医療者の健康なくしてこれらは成り立たない。本研究は、医療者に生じ得る心理的反応（バーンアウト/共感疲労/共感満足）および、医療者の共感特性やストレスコーピングを縦断的に調査し、心理的反応に関連する要因をいくつか特定した。これらの知見は、医療者の心理的健康を高めるための教育を検討する上で有用な情報であり、社会的意義は大きいものと考えられる。

研究成果の概要（英文）：Longitudinal data were collected from 118 National Defence Medical College healthcare professionals. Psychological measures assessed psychological response (burnout/compassion fatigue/compassion satisfaction), empathy (empathic concern/personal distress/perspective taking/fantasy), and stress coping. An exploratory factor analysis of stress coping identified three factors (active coping/help-seeking/indirect coping). A mixed-effects model for repeated measures with each psychological response as a dependent variable identified personal distress, indirect coping as risk factors, and empathic concern and active coping as protective factors. These findings provide helpful information for considering educational interventions to enhance the psychological health of healthcare professionals.

研究分野：産業精神保健

キーワード：医療従事者 共感性 共感疲労 バーンアウト ストレスコーピング

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

対人援助職は、対象者のあらゆる感情を受け止め、常に適切な対応が求められることから「感情労働」と呼ばれる。中でも医療者は、病気に苦しむ多くの患者やその家族と対峙し、時には患者の死と向かい合い、感情的に巻き込まれることも少なくはない。これらの過程において医療者は、感情の枯渇、燃え尽き、心的外傷後トラウマ反応といった症状を経験し得ることが知られており、バーンアウト [Freudenberger, 1974]、共感疲労あるいは二次的トラウマ [Figley, 1995, 2002] 等の概念で提唱されてきた。

共感性は、認知的共感 (他者の内面に対する理解) と感情的共感 (他者に対する情動的な共鳴) に分けて概念化されることが多い。認知的共感は、患者を効果的に治療する上で重要視されてきたのに対し、感情的共感 は医療者の正確な判断力を鈍らせるものとみなされてきた。従来から医療者に推奨されてきた Detached Concern (患者に対し認知的に共感しながらも、一定の感情的距離を保つ姿勢) とは、これらを具現化した概念である [Fox et al., 1963]。このような姿勢を維持することにより、医療者は客観性を維持し、患者との関わりにおいて被るネガティブな心理的反応を制限し、バーンアウトを予防できると考えられてきた [Halpern, 2007]。一方これに対し、医療者が感情的共感も十分に発揮することにより、患者の満足度や治療コンプライアンスが向上し、治療効果が高まるだけでなく、医療者の満足度も高まるとの知見が 1990 年台以降に数多く報告された [Derksen et al., 2013]。これらの知見から、近年では Detached Concern に置き換わり、「医療者は認知的・感情的共感性の双方を十分に発揮して患者に接することが望ましい」という考えが主流となっている [Halpern, 2007]。そのような中、医学生や研修医の共感性が教育過程において低下しているとの報告が相次いだこともあり [Neumann et al., 2011]、医療者の共感性を高めるための教育的介入が積極的に行われるに至っている [Kelm et al., 2014]。

これらの現状を見ると、高い共感性が医療にもたらすポジティブな側面ばかりが目立っており、医療者の共感性を高めることに偏重していると言える。近年の研究において、Empathic Concern (共感的関心) や Personal Distress (個人的苦痛) といった感情的共感性の指標が、医療者の満足度のみならずネガティブな心理的反応とも関連していることが報告されている [Gleichgerricht et al., 2013]。このような実証的研究の不足が、共感性に関する偏った見解を招いている一因として考えられるが、医療者に生じ得るネガティブな心理的反応に対する注意喚起をもっと促す必要がある。医療者が認知的にも感情的にも高い共感性をもって患者と接することにより、患者の満足度や治療効果は向上するかもしれないが、そうした中で、ネガティブな心理的反応に苦しんでいる医療者がいるのではないかと縦断研究において報告されている、教育過程における共感性の低下は、このような苦悩に対するコーピングの現れではないか？もしそうであるならば、現状の共感性に関する医学教育において、新たな視点を導入する必要があるのではないかと我々の学術的な問いである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、医療者の共感特性・心理的反応 (ポジティブ・ネガティブ双方)・ストレスコーピングの関連性を分析し、医療者のメンタルヘルスにおける保護的因子及び脆弱因子を探索するとともに、有効な教育介入方法を検討することである。

3. 研究の方法

本前向きコホート研究では、Time1 (2020 年 3~5 月または 2021 年 3~5 月)において医学生 150 名及び看護学生 240 名に対して自記式アンケート調査を行い、それぞれ 2 年後の Time2 (2022 年 3~5 月または 2023 年 3~5 月)における調査と合わせて 2 回とも回答が得られた者を対象とした。共感特性の評価には IRI (Interpersonal Reactivity Index)を、ストレスコーピング特性の評価には Brief COPE (Brief Coping Orientation to Problem Experienced)を、心理的反応の評価には ProQOL (Professional Quality of Life Scale)を用いた。Brief COPE の分析には、先行研究の因子分析で得られた 3 つの下位尺度 (積極的コーピング・援助希求・間接的コーピング)を使用した。

変数中心のアプローチとして、混合効果モデルを用いて共感特性及びコーピング特性が心理的反応に与える影響を分析した。続いて Person-centered のアプローチとして、対象者を共感特性やコーピング特性により潜在プロファイル分析を用いて分類し、各群の経過を分析した。

4. 研究成果

研究参加者のうち、time 1 及び time 2 における調査で 2 回とも回答が得られた本研究の対象者は医学生 30 名 (回答率 20.0%)、看護学生 88 名 (回答率 36.7%) であった。混合効果モデルにより、個人的苦痛は共感疲労・バーンアウトの上昇及び共感満足の低下、共感的関心は共感満足

の上昇、積極的コーピング及び援助希求は共感満足の上昇及びバーンアウトの低下、間接的コーピングは共感疲労・バーンアウトの上昇へ有意に影響 ($p < 0.001$) することが示された。

潜在プロファイル分析により、対象者の共感・コーピング特性は3群に分類され、心理的反応(共感疲労・バーンアウト・共感満足)に有意差 ($p < 0.001$) が示された。

医学生・看護学生において、共感特性及びコーピング特性の違いにより、異なる心理的反応を呈することを示した。本結果は、医療従事者に対し、個人の特性に応じた教育的介入が重要であることを示唆している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 Shoji Kotaro, Noguchi Norihito, Waki Fumiko, Saito Taku, Kitano Masato, Edo Naoki, Koga Minori, Toda Hiroyuki, Kobayashi Nobuhisa, Sawamura Takehito, Nagamine Masanori	4. 巻 14
2. 論文標題 Empathy and Coping Strategies Predict Quality of Life in Japanese Healthcare Professionals	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Behavioral Sciences	6. 最初と最後の頁 400 ~ 400
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3390/bs14050400	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Kitano Masato, Shoji Kotaro, Nakaita Ikumi, Sano Shinya, Tachibana Shoichi, Shigemura Jun, Tachimori Hisateru, Noguchi Norihito, Waki Fumiko, Edo Naoki, Koga Minori, Toda Hiroyuki, Yoshino Aihide, Nagamine Masanori	4. 巻 23
2. 論文標題 Japanese public health nurses classified based on empathy and secondary traumatic stress: variable-centered and person-centered approaches	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 BMC Psychiatry	6. 最初と最後の頁 710 ~ 710
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1186/s12888-023-05198-6	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 長峯 正典、佐野 信也、重村 淳、吉野 相英、清水 邦夫	4. 巻 31
2. 論文標題 医療従事者に求められる共感性に関する考察	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 総合病院精神医学	6. 最初と最後の頁 147 ~ 152
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11258/jjghp.31.147	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 1件／うち国際学会 0件）

1. 発表者名 長峯正典
2. 発表標題 災害支援者および医療者が被る心理的苦悩と共感性との関連について
3. 学会等名 西宮市医師会精神科医会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 脇文子、北野誠人、野口宣人、江戸直樹、長峯正典
2. 発表標題 臨床現場における共感特性及びコーピングと心理的反応に関する研究
3. 学会等名 第67回防衛衛生学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 脇文子、野口宣人、北野誠人、江戸直樹、牧野由紀子、小林伸久、澤村岳人、長峯正典
2. 発表標題 医療従事者の心理的反応と共感特性及びストレス対処との関連に関する研究
3. 学会等名 第21回日本トラウマティック・ストレス学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 脇文子、北野誠人、野口宣人、長峯正典
2. 発表標題 臨床現場における共感特性と心理的反応との関係（1年目の横断的データ分析報告）
3. 学会等名 第66回防衛衛生学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 野口宣人、脇文子、松本光生、上野美紀、長峯正典
2. 発表標題 看護学生の共感特性と心理的反応との関係
3. 学会等名 第66回防衛衛生学会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	野口 宣人 (Noguchi Norihito) (20805105)	防衛医科大学校 (医学教育部医学科進学課程及び専門課程、 動物実験施設、共同利用研究施設、病院並びに防衛・その 他・講師 (82406)	
研究 分担者	重村 淳 (Shigemura Jun) (90286576)	目白大学・保健医療学部・教授 (32414)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------